

Campus Life

I 防災対策・安全の確保



防災対策・安全の確保 ……114

● 防災対策・安全の確保

1 実験室等使用上の注意

1. 実験室等の使用が深夜又は休日の場合は、事前に指導教員の承認を得ること
2. 実験室等の整理整頓に努め、退避口を広く空けておくこと
3. 電熱、ガスその他の火気を点火したまま短時間でも退室しないこと
4. 退室の際は、必ず閉栓、スイッチの切断、残火の始末の確認を行うこと
5. 実験室の利用者は、作業終了の都度、指導教員等に報告すること
6. 休日等の実験中に不測の事態が生じた場合は、指導教員に連絡することはもとより、速やかに守衛室に連絡すること

2 緊急時・災害時の連絡体制等

1. 負傷者がいる場合

負傷した本人や傍にいる人は、直ちに、指導教員や保健管理センターに連絡してください。また、状況によっては躊躇することなく救急車の要請をしてください。

2. 実験機器・器具等の損傷等が生じた場合

直ちに、指導教員に連絡して、指示を受けて対処し、被害の拡大を防ぐように努めてください。

※万一の事故に備え、学生教育研究災害傷害保険に加入しておいてください。

学生事故・事件発生時の連絡先

学生の団体又は個人において事故・事件が発生したとき、又はそれを知ったときは、報告者の所属・氏名、連絡先、事件・事故の様子（災害にあつては被害状況）、日時、場所などの事柄について、次により直ちに連絡してください。

■授業中、課外活動中での事故・事件の場合（学内・学外を問わない）

授業日の昼間 指導教員・顧問教員・近くの教員などに連絡。

近くに教員がいないとき 学生生活課（F棟1階）0742-20-3280（学生生活係）

■事故・事件、震災・台風等による被害を受けた場合（帰省先、旅行先を含む）

平日 学生生活課 0742-20-3280（学生生活係）

休日や夜間等 守衛室 0742-20-3214

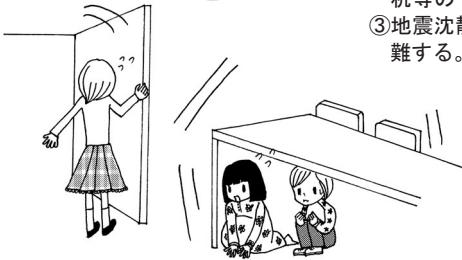
3 キャンパス内で地震が発生したら

地震や火災が発生！その時どうする

地震

まず、身の安全をはかってください。
どんなに大きな地震でも大揺れは1分程度です。
揺れの治まるのを待って冷静に行動してください。

授業中



- ① ドア付近の人はドアを開け、出口を確保する。
- ② 頭上からの落下物に備え、机等の下に身を伏せる。
- ③ 地震沈静後は落ちついて避難する。

食堂、部室、 体育館などに いる時



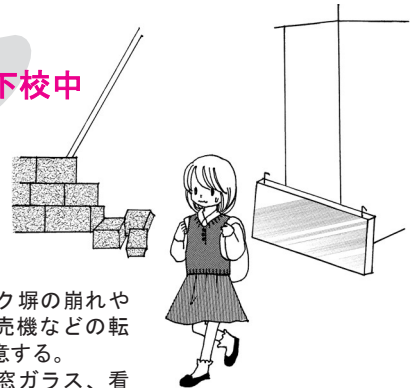
- ① 落下物や機器類の転倒に注意する。
- ② 揺れが治まったら、お互いに声を掛け合って避難する。

エレベーターに 乗っている時



- ① 最寄りの階で停止するので、階段を利用して避難する。
- ② エレベーター内に閉じ込められた場合は、構内電話で救助を求める。

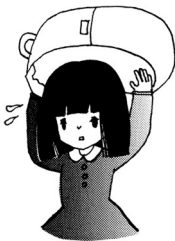
登下校中



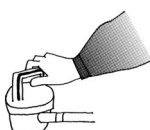
- ① ブロック塀の崩れや自動販売機などの転倒に注意する。
- ② ビルの窓ガラス、看板などの落下に注意する。

地震の心得7ポイント

① まず、身の安全



② 火の始末



③ 避難口の確保



④ 火が出たら
初期消火



⑤ あわてて外に
飛び出さない



⑥ 協力しあって
応急救護



⑦ 正しい
情報を聞く



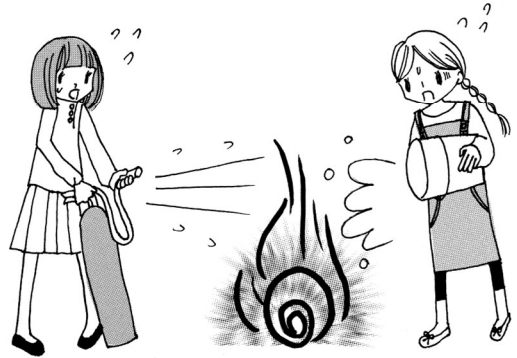
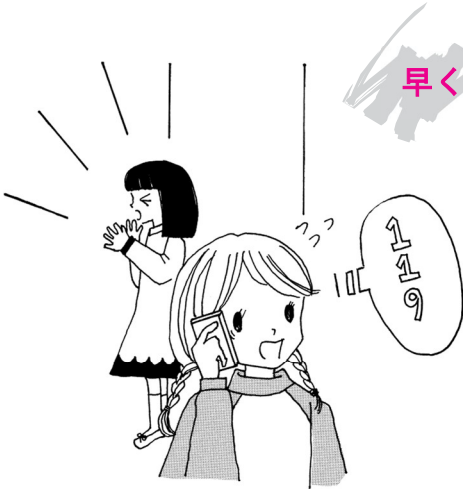
4 キャンパス内で火災を発見したら

火災

あわてず、冷静に身の安全をはかりつつ、次の三つの行動をとってください。日頃から消火器の位置と使用法、避難路を確認しておくことが大切です。

早く知らせる

- ①「火事だあー」と大声で叫ぶ！
- ②近くの人や事務室に早く知らせる。
- ③119番に通報する。



早く逃げる

- ①避難は早めに！
- ②煙が発生したらハンカチ等を口と鼻にあて、姿勢を低くして避難する。



早く消す

- ①消せると判断したら初期消火を！
- ②ムリは絶対にしないこと。天井に火が回るまでが勝負。

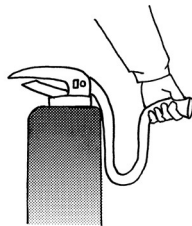
地震の心得7ポイント

粉末・強化液消火器

1. 安全ピンを引き抜く



2. ホースをはずし火元に向ける



3. レバーを握って噴射

